

「東京藝大音楽学部

推薦学生によるクラシックから純邦楽まで！

現在(いま)聴くべき究極(9曲)！」

ロック、ポップスからクラシックまで幅広いジャンルにおいて豊富な音源を誇る、世界的なレーベルであるワーナーミュージック・グループ傘下のワーナーミュージック・ジャパンと、日本で最も古い歴史を誇り、芸術分野の最高学府とも言われる東京藝術大学が、音楽教育と音楽産業のさらなる活性化に向けてパートナーシップを組み、ワーナークラシックスよりリリースする、東京藝術大学の学生代表 9 組の演奏を収録したアルバム「東京藝大音楽学部 推薦学生によるクラシックから純邦楽まで！現在(いま)聴くべき究極(9曲)！」。

今年で創立 130 周年を迎え、2014 年には文部科学省による「スーパーグローバル大学創成支援事業」に芸術系大学として唯一採択された東京藝術大学は、ワーナーミュージック・ジャパンのネットワークと組む事により、国内外の音楽市場に向けた藝大生のキャリア支援および機会の創出を目指し、ワーナーミュージック・ジャパンは、クラシック音楽マーケットの開拓と新たな音楽聴衆層の拡大、若手音楽家の発掘および育成を促進します。

本アルバムは、東京藝術大学の学生のためのレーベル「GEIDAI LABEL supported by Warner Music Japan」立ち上げの先駆けとなるものとして位置づけられ、今作では、第 19 回 J.S.バッハ国際コンクールでアジア人として初めて第1位に輝いたヴァイオリンの岡本誠司をはじめ、クラシック音楽はもとより、邦楽も含めた、東京藝術大学の学生選抜メンバーによる演奏音源を収録しています。

*本アルバムには、2017 年 5 月 21 日現在、同大学卒業生の音源が含まれますが、録音は全て在学中に行われたものです。

[トラックリスト]

1. パガニーニによる大練習曲第3番「ラ・カンパネラ」／リスト
2. 春の海／宮城道雄（※箏曲）
3. 無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ第2番 BWV. 1004～5. シヤコンヌ／J.S. バッハ
4. フルートとピアノのためのソナチネ／リヴィエ
5. 無伴奏チェロ組曲第1番 Op. 72～1. カント・プリモ／ブリテン
6. 賀茂（※能楽・独鼓）
7. ホルンとピアノの為のヴィラネル／デュカ
8. 長唄「梅の栄」／三世 杵屋正次郎（※長唄三味線）
9. 弦楽四重奏曲第38番変ホ長調 Op.33-2 「冗談」～第1楽章:アレグロ・モデラート／ハイドン
10. 弦楽四重奏曲第38番変ホ長調 Op.33-2 「冗談」～第4楽章:フィナーレ(プレスト)／ハイドン

[アーティスト]

1. 崎谷明弘(ピアノ)
2. 石本かおり(箏)、井本蝶山(尺八)
3. 岡本誠司(ヴァイオリン)
4. 大久保祐奈(フルート)、與口理恵(ピアノ*賛助演奏)
5. 伊東裕(チェロ)
6. 関根祥丸(謡)、澤田晃良(太鼓)
7. 庄司雄大(ホルン)、大野真由子(ピアノ*賛助演奏)
8. 布施田千郁(三味線)、針塚紗絵(三味線)、伊藤薫子(長唄)
9. カルテット・アルパ(小川響子<1st Vn>、戸原直<2nd Vn>、古賀郁音<Vla>、伊東裕<Vc>)
10. カルテット・アルパ(小川響子<1st Vn>、戸原直<2nd Vn>、古賀郁音<Vla>、伊東裕<Vc>)

[楽曲解説／西原 稔]

1. バガニーニによる大練習曲第3番「ラ・カンパネラ」

フランツ・リスト(1811年～1886年)がヴァイオリンの名手バガニーニの演奏を初めて聴いたのは、1832年、リストが21歳の時である。1831年～1832年にかけてリストは、バガニーニの《ヴァイオリン協奏曲第2番》(op.7)の第3楽章を基にした《バガニーニの「鐘」によるブラヴーラ風大幻想曲》(S.420)を作曲する。この作品は改訂されて、1839年、6曲からなる第1版《バガニーニによる超絶技巧練習曲》(S.140)の第3番に収められた。さらにこの作品集は1851年に《バガニーニによる大練習曲》(S.141)として大幅に改訂された。《ラ・カンパネラ》この作品は「小さな鐘」を意味し、ヴァイオリンで実現した高度なテクニックを、ピアノ独自の語法で表現した。

2. 春の海

宮城 道雄(1894－1956)神戸市出身の日本を代表する箏曲家である。大検校の称号を得た箏曲の名手であるが、同時に邦楽と洋楽の融合した新たな創作に取り組んだ。この《春の海》は1929年に歌会始の勅題「海辺の巖」にちなんで、箏と尺八のために作曲した作品であるが、来日したヴァイオリン奏者のルネ・シュメーがこれをヴァイオリンで演奏し、それがレコード録音されたことでこの作品は世界に知られるようになった。

3. 無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ第2番 BWV. 1004～5.シャコンヌ

J.S.バッハ(1685－1750)が6曲からなる《無伴奏ヴァイオリン・ソナタとパルティータ》を完成するのは、彼のケーテン宮廷楽長時代において、この曲集の自筆譜には「1720年」と年代が記されている。この《シャコンヌ》は《無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ第2番》の終曲に置かれている。シャコンヌは、バツ・オスティナートと呼ばれるバス進行の定型で、このバスの上に上声部がさまざまな変奏を展開する。このシャコンヌでは冒頭の主題の後、この定型が34回反復され、その上に上声部がさまざまな技巧を凝らした変奏を提示する。

4. フルートとピアノのためのソナチネ

ジャン・リヴィエ(1896－1987)は20世紀に活躍したフランスの作曲家で、新古典主義の明晰な作風で知られ、7曲の交響曲やフルート協奏曲、管楽器を用いた室内楽作品などを残した。この作品には「父の思い出に」という言葉が添えられている。この《ソナチネ》は3楽章からなり、アレグロ・モデラートの第1楽章は基本的にソナタ形式の構成で書かれ、第1主題は流麗で活発な楽想で、第2主題はそれとは対照的な伸びやかな表現。第2楽章のレント・アフエトゥオーソはフルートのモノローグのような旋律で開始する。情感あふれる楽章である。プレスト・ジョカンドの第3楽章は戯れるような快活なフィナーレで、ピアノとフルートとの見事な掛け合いが聞きどころである。

5. 無伴奏チェロ組曲第1番 Op. 72～1. カント・プリモ

エドワード・ベンジャミン・ブリテン(1913年－1976年)は20世紀のイギリスの代表的な作曲家で、ヨーロッパ大陸の作曲家が無調音楽や表現主義の音楽に強く傾斜するなかで、独自のモダニズムの作品

を手がけた。この作品は1964年の作曲で、ロストロポーヴォチという名チェリストと結びついて生み出された。作品は1965年のマールポロ音楽祭でロストロポーヴィチによって初演された。この作品ではフーガやスケルツォの間に「歌(カント)」が挿入されて進行する形式がとられている。6楽章からなりこの「歌」が間に3回繰り返される。

6. 賀茂

能の演目の一つで、賀茂神社の縁起にちなんだ作品。気高く勇壮な能で知られる。この作者は金春禪竹とされる。金春禪竹は室町時代中期の名能役者で、世阿弥の娘婿である。この謡曲は、播磨の室(むろ)の明神の神職が加茂神社に参拝すると、御祖神(みおやのしん)と別雷神(わけいかずちのかみ)が現れて、神徳を説くという内容である。

7. ホルンとピアノの為のヴィラネル

ポール・デュカ(1865－1935)は近代フランスの代表的な作曲家で、ヴァーグナーの作曲技法やドビュッシーの和声手法などを取り入れ、個性豊かな作品を生み出した。この《ヴィラネル》は1906年、パリ音楽院の課題曲として作曲された作品である。テンポや表情の異なるいくつかの部分からなり、「とても中庸に(トレ・モデレ)」の部分では、ピアノが長調の和音を力強く奏して始まるが、ピアノの下行進行にとともた静寂に包まれ、ホルンが表情豊かに主題を提示する。「とても急速に(トレ・ヴィフ)」の部分を経て、最後は勢いよく力強く締め括る。

8. 長唄「梅の栄」

明治時代の初めに、三世村屋正治郎が結婚の記念として妻(旧姓、岡安喜三梅)のために作曲し、妻の名前を織り込んだとされているが、新年の祝いのための作品とみられ、初春ののどかな風情を表現している。この長唄に合わせた日本舞踊も踊られる。「鶏が啼く 花の東に立つ春の あけて目出度き 島台は 富士とつづばにたとえにし」と歌い始め、「梅の栄えと世に広く 三つの緒琴に祝うひとふし」と、梅の栄と初春の喜びでしめくくる。

9. 弦楽四重奏曲第38番変ホ長調 Op.33-2 「冗談」～第1楽章:アレグロ・モデラート

10. 弦楽四重奏曲第38番変ホ長調 Op.33-2 「冗談」～第4楽章:フィナーレ(プレスト)

J.ハイドン(1732－1809)は1781年、6曲からなる「ロシア四重奏曲」(作品33)を完成する。それは作品集がのち1796年にロシア皇帝となったパーヴェル・ペトロヴィッチ大公に献呈されたことに由来する。この四重奏曲はハイドンの個性を確立した曲集として重要な意味を持ち、モーツァルトやベートーヴェンに影響を与えた。第38番はその第2番にあたる。第1楽章のアレグロ・モデラートは落ち着いた楽想で、古典的な均整感をもつ。第4楽章のプレストはユーモアあふれる楽章の締めくくり方から、「冗談」の名で呼ばれる。

[アーティストプロフィール]

崎谷明弘 (ピアノ)



1988 年生神戸出身。6 歳よりピアノを始め、ヤマハマスタークラス・兵庫県立西宮高校音楽科修了。幼い頃より兵庫県学生ピアノコンクール(B・D 部門最優秀賞・県知事賞)、ピティナ・ピアノコンペティション (D 級金賞/特級銀賞)、全日本学生音楽コンクール (中学校の部全国 1 位・野村賞)、第 16 回カラブリア国際ピアノコンクール第 2 位 (1 位なし) 等、入賞を重ねる。

高校卒業後にヤマハ音楽支援制度奨学生として渡仏し、パリ国立高等音楽院入学以来卒業時まで一貫して満場一致での首席修了。在学中に第 80 回日本音楽コンクール第 3 位、第 3 回リヨン国際ピアノコンクールにて優勝。第 15 回松方ホール音楽賞受賞。

帰国後はロームミュージックファンデーションの奨学金を得て東京藝術大学大学院修士課程を首席で修了し、クロイツァー賞・藝大クラヴィア大賞・大学院アカンサス賞受賞。現在、同博士後期課程に在籍しコンクールの研究を行う。在学中、第 59 回ブゾーニ国際ピアノコンクール第 3 位 (1 位なし)、第 18 回サンタンデル国際ピアノコンクール入賞、第 56 回ハエン賞国際ピアノコンクール第 1 位優勝・併せてスペイン音楽賞と聴衆賞を受賞。2013 年度青山音楽賞・新人賞、2014 年度兵庫県芸術奨励賞、2016 年度神戸市文化奨励賞受賞。

仏ノアン音楽祭、米ボストン大、第 34 回横浜市国際招待ピアノ演奏会に招聘されるなど、精力的なりサイトル・室内楽活動を展開。大阪交響、日本フィル、東京交響、日本センチュリー、PAC、神戸市室内合奏団、スペイン放送響等と共演多数。

DPIC 社より『ベートーヴェン ピアノソナタ全集・第 1 巻』・『第 2 巻』・『第 3 巻』、Naxos 社からも『崎谷明弘ピアノリサイトル』CD リリース。指導者としてヤマハマスタークラス九州の講師も務める。

これまでにピアノを渡辺純子、鳥居知行、C. ソアレス、荒木美佳、J. ルヴィエの各氏に、現在、迫昭嘉氏に師事。室内楽を T. パラスキベスコ、D. オヴオラの各氏に、楽曲分析・ソルフェージュを若林千春・横田秀孝の各氏に師事。

石本かおり（箏）



東京都出身。

6歳より箏を、高校生より地歌三絃を、叔母深海さとみに師事。

2008年、日仏青少年文化交流に参加。

2012年、IMF世界銀行年次総会2012レセプションにて演奏。

2014年、東京藝術大学音楽学部邦楽科生田流箏曲専攻卒業。在学中、宮城賞と同声会賞を受賞。同大学同声会新人演奏会に出演。宮内庁主催皇居内桃華楽堂にて御前演奏を務める。「第二屆 弾抜音楽節」(中国中央音楽学院主催)に参加。

2015年、英国王立音楽院にてワークショップおよび、在英国日本国大使館にて演奏。

2016年、東京藝術大学大学院音楽研究科邦楽専攻修士課程修了。市川市文化振興財団第29回新人演奏家コンクール邦楽器部門において優秀賞受賞。

2017年、利根英法記念邦楽コンクール第3回古典「箏曲地唄」一般の部において最優秀賞受賞。

宮城社教師。深海邦楽会・森の会・同声会、各会員。一般社団法人 伝統芸能国際化協会 和楽器演奏集団「互-tagai-」メンバー。

井本蝶山〈本名：井本早紀〉（尺八）



10歳より都山流尺八を永廣孝山師に師事。12歳で准師範試験に、15歳で師範試験に史上最年少で登第。'08年 オーストラリアで行われた国際尺八フェスティバルの尺八世界大会優勝。'09年全国高校生邦楽コンクール優勝。同年、NPO法人 JML 音楽研究所主催の日独青少年交流コンサートの一員として3週間ドイツ各地で演奏。'11年 ロシアで行われたウラジオストク・ビエンナーレにて演奏。'12年 現地との文化交流のため南インド各地で演奏。'14年 国際交流基金実施の学生クリエイター交流事業 KAKEHASHI プロジェクトの一員としてNYなど北米各地でプレゼンテーションや演奏を行う。'16年 NPO法人 若い芽を育てる会特別賞授賞。自身初のリサイタルを開催。ロシアのモスクワ、サンクトペテルブルクにて多数公演。丹波の森国際音楽祭シューベルティアードたんば 2016 のフランスとして一連のコンサート出演。

東京藝術大学附属高校を経て、'14年同大学音楽学部邦楽科都山流尺八専攻卒業。卒業時に同声会賞受賞、皇居桃華楽堂にて御前演奏を務める。'16年同大学大学院音楽研究科修士課程修了。国内外で演奏活動を行う他、学校公演やワークショップ、尺八教室など教授活動にも力を入れている。南禅寺 独秀流南禅教会音曲担当。都山流尺八 菖友会講師。カレッジ神戸尺八講師。日本三曲協会会員。邦楽アンサンブルみやこ風韻メンバー。

岡本誠司（ヴァイオリン）



1994 年生まれ。東京藝術大学附属音楽高校を経て、東京藝術大学を 2017 年 3 月に卒業。

2014 年 7 月、ドイツのライプツヒで開催された第 19 回 J.S.バハ国際コンクール ヴァイオリン・バロックヴァイオリン部門にて優勝。64 年の歴史あるコンクールで、アジア人初の快挙となった。併せて聴衆賞も受賞。

2016 年 10 月、ポーランドのポズナンで開催された第 15 回ヴィエニャフスキ国際コンクールで第 2 位に入賞。その後 ポーランド各地、ロシアのサンクトペテルブルクでの副賞ツアーで現地のオーケストラと共演。好評を博す。

3 歳よりヴァイオリンを始める。小学生の頃よりコンクールに参加し、第 60 回全日本学生音楽コンクール小学校の部第 1 位、第 2 回宗次エンジェル・ヴァイオリンコンクール最年少入賞、カネッティ国際コンクール 2009 で最年少第 2 位と特別賞、2016 年第 6 回仙台国際音楽コンクールにて第 6 位と聴衆賞を受賞など、上記以外にも多くのコンクールで成績を残している。

15 歳で初リサイタルを開催。

研鑽しながら演奏活動も活発に行い、国内外でソリストとして 協奏曲の独奏、無伴奏、デュオのコンサートを成功させる一方、アンサンブル・プレイヤー、コンサートマスターとしても優れた資質を発揮してきている。

ラフォルジュルネ・熱狂の日音楽祭(東京)、ラフォルジュルネ金沢、BACHFEST LEIPZIG などの音楽祭にもソリストとして出演。2017 年 7 月 28 日にはベルギーでの MUSICA MUNDI に出演する。

オーケストラとの共演は、国内では斎藤一郎／セントラル愛知、円光寺雅彦／中部フィル、横浜シフォニエッタ、大井剛史・山下一史／千葉交響楽団、井上道義／アンサンブル金沢、海老原光／新日本フィル、広上淳一／仙台フィル、高関健／芸大フィルハーモニーなど。(敬称略)

メディアには NHK 総合「ひるまえほっと」、テレビ朝日「題名のない音楽会」、NHK-FM「リサイタル・ノヴァ」、TOKYO -FM「サンデースペシャル」、OTTAVA 「LFJ2017 スペシャル」などに出演。

2015 年度、2016 年 3 月まで(公財)ロームミュージックファンデーション奨学生。また NPO 法人イエロー・エンジェルより G.F.プレッセンダ(1827 年製)の貸与を受け、(株)日本ヴァイオリンより名器貸与特別助成を受けている。

これまでに富川歓、中澤きみ子、Gérard Poulet、澤和樹の各氏に師事。大学内では、Pierre Amoyal、Herwig Zack、長原幸太の各氏のクラスに所属したほか、国内外のマスタークラスで多くの名ヴァイオリニスト、名伯楽に薫陶を受けている。

千葉県知事より顕彰、台東区文化・スポーツ奨励賞、東京藝術大学では東京藝術大学平山郁夫文化芸術賞、安宅賞、アカンサス賞を受賞。

大久保祐奈（フルート）



4歳よりピアノ、10歳よりフルートを始める。

京都市立京都堀川音楽高等学校を経て、東京藝術大学器楽科を首席卒業、同大学院音楽研究科修士課程を修了。学内にて安宅賞、アカンサス賞、三菱地所賞を受賞。平成20年から3年間、京都市教育委員会より表彰される。「世界に翔く若き音楽家たち」に出演、京都芸術祭奨励賞受賞。平成26年度、青山財団奨学生。藝大モーニング・コンサート、新卒業生紹介演奏会にて藝大フィルハーモニアと共演。

今までにフルートを幸脇直人、中川佳子、小久見豊子、中務晴之、高木綾子、神田寛明、各氏に師事。室内楽を十亀正司、岡本正之、藤本隆文、伊藤恵、各氏に師事。

現在、兵庫県芸術文化センター管弦楽団コアメンバー。ぱんだウインドオーケストラ首席フルート奏者。フルートカルテット FEAMS、フルートトリオ ドソクキンシ メンバー。京都市立京都堀川音楽高等学校非常勤講師。

伊東裕（チェロ）



奈良県出身。日本音楽コンクール チェロ部門第1位受賞、徳永賞受賞。これまでに長岡京室内アンサンブル、関西フィル、日本センチュリー交響楽団、神戸市室内合奏団、藝大フィル他オーケストラと協演。小澤国際室内楽アカデミー、音楽塾オーケストラ、また中之島国際音楽祭、いこま国際音楽祭、武生国際音楽祭、ムジークフェストなら、北九州国際音楽祭、宮崎国際音楽祭等に参加。NHK-FM リサイタル・ノヴァ、クラシック倶楽部などに出演。藝大にて福島賞、安宅賞、アカンサス音楽賞受賞。これまでに斎藤建寛、向山佳絵子、山崎伸子、中木健二各氏に師事。東京藝術大学音楽学部を首席で卒業、同大学院音楽研究科修士課程に進学し、現在ザルツブルクモーツァテウム音楽院にてエンリコ・ブロンツィ氏に師事。ヤマハ音楽支援制度 2011年度奨学生。(公財)青山財団 2014年度奨学生。(公財)ローム音楽財団 2017年度奨学生。

関根祥丸（謡）

能楽師 シテ方観世流。

平成五年生まれ 関根祥人長男。二十六世観世宗家 観世清和に師事。
東京藝術大学音楽学部邦楽科卒業。在学中アカンサス賞受賞。



澤田晃良（太鼓）

平成五年生。太鼓方観世流能楽師。

名古屋出身。東京芸術大学邦楽科能楽囃子専攻卒業。
観世元伯師の元で内弟子修行中。



庄司雄大（ホルン）



宮城県仙台市出身。東京藝術大学音楽学部器楽科卒業。同大学モーニング・コンサートにおいてソリストとして藝大フィルハーモニアと共演。
オーディション合格者による室内楽定期演奏会出演。第86回読売新人演奏会出演。第3回日本ホルンコンクール第2位。これまでにホルンを、須田一之、日高剛、西條貴人、伴野涼介の各氏に師事。

現在、東京藝術大学音楽学部管弦楽研究部非常勤講師(藝大フィルハーモニア管弦楽団 首席ホルン奏者)

布施田千郁（三味線）



東京藝術大学附属高校、東京藝術大学を経て、同大学院修士課程卒業。

これまでに、浄観賞、同声会新人賞、第28回市川市新人演奏家コンクール邦楽部門優秀賞、大学院アカンサス音楽賞受賞。平成26年度青山財団奨学生。学部卒業の際皇居にて御前演奏の機会を承る。

これまでに長唄三味線を東音長坂雄太郎師、東音小島直文師に、長唄を東音小林百合師に師事。

長唄東音会同人、長唄協会会員

針塚紗絵（三味線）

1993年東京都生まれ。14歳から長唄三味線を始める。2016年東京芸術大学音楽学部邦楽科卒業。三味線を伊勢弥生、長唄を西垣和彦に師事。

現在は、宮地楽器にて音楽教室運営業務に従事する傍ら、細々と演奏活動を継続中。



伊藤薫子（長唄）



1991年東京都出身。幼少期の頃から、祖父松島庄九郎、父松島藤次郎、母杵屋栄津雄に長唄三味線の手ほどきを受ける。1994年、三越劇場にて初舞台「供奴」を唄う。2014年、東京藝術大学音楽学部邦楽科を卒業。2017年、同大学院音楽研究科修士課程を卒業。長唄を東音味見純師、長唄三味線を杵屋栄敏郎師に師事。長唄女子東音会、及び長唄協会に所属。

カルテット・アルパ



2013年に東京芸術大学で結成。

和光大学ポプリホール鶴川で若き演奏家による「水曜午後の音楽会」、芸大定期「室内楽」、富山室内楽フェスティバル、サントリーホールチェンバーミュージックガーデン、六花亭コンサートなどの演奏会に出演。日本を代表するピアニスト、若林 顕氏との共演、学校でのアウトリーチ活動を行うなど、様々な演奏活動に取り組んでいる。

2015年夏には、イギリス湖水地方音楽祭、ISA(International Summer Academy)に参加。

バンフ国際弦楽四重奏コンクール2016にて、Career Development Awardsを受賞。

これまでに、川崎和憲、上森祥平、川本嘉子、山崎貴子、西野ゆかの各氏に師事。

また、堤剛、岡山潔、原田幸一郎、池田菊衛、磯村和英、カルテット・エクセルシオの各氏に指導を受ける。

サントリーホール室内楽アカデミー第三期を修了。

[カルテット・アルパ/メンバー・プロフィール]

1st ヴァイオリン：小川 響子

第10回東京音楽コンクール 弦楽部門第1位、及び聴衆賞を受賞。ザルツブルク・モーツァルト国際室内楽コンクール2015第1位。東響、新日本フィル、東京フィル、日本フィル、都響をはじめ、オーケストラと多数共演。また、アンネ・ゾフィ・ムター氏、小澤征爾氏とソリストとして共演。サイトウ・キネン・オーケストラに参加。東京・春・音楽祭、ラフォルジュルネ・オ・ジャポンなどの音楽祭に参加。ソロ、室内楽、オーケストラをはじめとする様々な分野で積極的に活動している。

現在、東京芸術大学大学院修士課程在学中。これまでに、塩谷峰子、西和田ゆう、原田幸一郎、漆原朝子、松原勝也、堀正文の各氏に師事。サントリーホール室内楽アカデミー 第3期、第4期フェロー。2017年度ヤマハ音楽支援制度奨学生。

2nd ヴァイオリン：戸原直

東京都八王子市出身。

東京芸術大学音楽学部を卒業、同大学大学院を修了。

東京芸術大学音楽学部在学中に安宅賞、卒業時にアカンサス音楽賞、同声会賞を受賞。大学院修了時に大学院アカンサス音楽賞を受賞。

2012年第17回コンセール・マロニエ 21 弦楽器部門第1位。デザインK国際音楽コンクール2012全部門グランプリ第1位。2016年に BISQC(Banff International String Quartet Competition)に参加し、Career Development Awards を獲得。

東京藝術大学にてB.ケレメン、M.マルティン、R.ホーネック、ライブツヒ・カルテット、ジュリアード・カルテット各氏によるマスタークラス受講。

リゾナーレ室内楽セミナーに参加し、奨励賞、音楽賞を受賞。小澤国際室内楽アカデミーに参加。第227回世田谷美術館プロムナードコンサート、JTが育てるアンサンブルシリーズ、東京藝大定期室内楽、旧奏楽堂木曜コンサート出演。東京藝大モーニング・コンサートでソリストとしてシューマンのヴァイオリン協奏曲をオーケストラと協演。

これまでにヴァイオリンを柴田裕子、七澤清貴、齋藤真知亜、漆原朝子、漆原啓子、徳永二男、E.ペレーニ、玉井菜採、堀正文の各氏に師事。ヴィオラを川崎和憲氏に師事。

平成26年度青山財団奨学生。紀尾井シンフォニエッタ東京2015-2016シーズン・メンバー。サントリーホール室内楽アカデミー第3期フェロー。

現在、藝大フィルハーモニア管弦楽団コンサートマスター。

ヴィオラ：古賀郁音

5歳よりヴァイオリンを、15歳よりヴィオラを始める。

第1回宗次ホール弦楽四重奏コンクール第三位、第13回大阪国際コンクールアンサンブル部門第二位。

藝大学生による木曜コンサート、藝大定期室内楽、馬車道コンサート、サントリーホールチェンバーミュージックガーデン、とやま室内楽フェスティバルなどに出演。

東京藝術大学附属音楽高等学校を経て、同大学音楽学部、同大学院修士課程ヴァイオリン専攻を修了し、現在ベルリンハンスアイスラー大学にてヴィオラを学ぶ。サントリーホール室内楽アカデミー第3期フェロー。

これまでにヴァイオリンを石橋敦子、浦川宜也、漆原朝子、松原勝也の各氏に、ヴィオラを川崎和憲、市坪俊彦、Walter Küssnerの各氏に、室内楽を大友肇、川本嘉子、澤和樹、松原勝也、山崎貴子、山本裕康の各氏に師事。

チェロ：伊東裕

奈良県出身。日本音楽コンクールチェロ部門第1位受賞、徳永賞受賞。これまでに長岡京室内アンサンブル、関西フィル、日本センチュリー交響楽団、神戸市室内合奏団、藝大フィル他オーケストラと協演。小澤国際室内楽アカデミー、音楽塾オーケストラ、また中之島国際音楽祭、いこま国際音楽祭、武生国際音楽祭、ムジークフェストなら、北九州国際音楽祭、宮崎国際音楽祭等に参加。NHK-FMリサイタル・ノヴァ、クラシック倶楽部などに出演。藝大にて福島賞、安宅賞、アカンサス音楽賞受賞。これまでに齋藤建寛、向山佳絵子、山崎伸子、中木健二各氏に師事。東京藝術大学音楽学部を首席で卒業、同大学院音楽研究科修士課程に進学し、現在ザルツブルクモーツァットウム音楽院にてエンリコ・ブロンツィ氏に師事。ヤマハ音楽支援制度2011年度奨学生。(公財)青山財団2014年度奨学生。(公財)ローム音楽財団2017年度奨学生。